

レファレンス

コーナー

国際機関のジェンダー統計

高橋理枝

男女平等の達成やジェンダーの視点を統合した開発計画を策定するには、まず女性がおかれた状況を知らなければならぬ。その点でジェンダーや女性と男性に関する統計（ジェンダー統計）には大きな関心が寄せられている。ここでは、ジェンダー統計について、国際機関作成のものを中心に紹介する。

女性に関するデータの研究、収集分析の重要性は、一九七五年の第一回世界女性会議で広く認識された。一〇年毎に開かれる世界女性会議では、女性がおかれた状況を把握するための統計上の概念の発展やデータの収集等を行なう計画や綱領として採択してきた。国連では国際女性調査訓練研修所（INSTRAW）が中心となってジェンダー統計の概念枠

組みについての研究や訓練、及びデータの収集を進めている。ジェンダー統計の発展の歴史やジェンダー統計論については、伊藤陽一編著『女性と統計—ジェンダー統計論序説—』（法政大学日本統計研究所、梓出版社 一九九四年）とビルギッタ・ヘッドマン／フランチェスカ・ペルーチ／ペール・スンドストローム著『女性と男性の統計論—変革の道具としてのジェンダー統計—』（梓出版社 一九九八年）が詳しい。特に後者は各国の状況を数値やグラフなどで示しながらジェンダーと開発及び統計上の問題を解説していきやすい。

現在では、一九九五年に第四回世界女性会議で採択された北京行動綱領の実施のため、各国政府や国際機関がジェンダー統計の作成に取り組んでおり、一般的な統計資料でもジェンダーに関するデータを得ることができるようになってきた。日本では、国立女性教育会館が各官庁や最高裁判所のデータに基づいて『女性と男性に関する統計データベース』を作成し、ウェブ上で提供している（<http://netmec.jp/obj/tnkoukaibad/tnksearch.cgi>）。

また貧困の撲滅を目指し設定されたミレニアム開発目標には「ジェンダーの平等の推進と女性の地位向上」が掲げられている。国連開発計画「人間開発報告」（国際協力出版会）では各国のジェンダー開発指数（GDI）やジェンダー・エンパワ

メント指数（GEM）及び関連するデータを得ることができる。

国連は、女性に関する包括的なデータを提供する基礎資料として国際連合著・日本統計協会訳『世界の女性—その実態と統計—』（一九七〇—一九九〇、一九九五、二〇〇〇年版の三冊を刊行した。この資料は「専門家でない人が容易に理解できるような形式と非技術的な言葉を使って統計や分析を提供する」もので、世界各国のデータに加えて、全体的な傾向や用語の解説なども掲載されており、女性が抱える様々な問題を理解することができる。

より多くの項目に関して統計データを得るには、国連発行のWSTAT: Women's Indicators and Statistics Databaseが利用できる。一九八〇年代後半から出版され始め、最新版Version4には一九九九年半ばまでのデータが収録されている。九つの主題について二〇六の国と地域の一九七〇年、一九八〇年、一九九〇年及び利用可能な最新年のデータが得られる。CDROMで利用が可能である。

国連の各地域経済委員会も、それぞれジェンダー統計の収集と分析を行っている。ただし、各地域の統計事情を反映して、統計の項目や精度は様々である。最も充実したジェンダー統計を提供しているのは、ヨーロッパ経済委員会（ECE）である。ECEは二〇〇〇年にジェンダー統計ウェブサイトプロジェクトを開始

し、ジェンダー統計データベースをウェブ上で提供している（<http://www.ece.org/statgender.asp>）。域内諸国の統計資料が比較的整備されているため、犯罪と暴力等を含め項目数はかなり多い。

アフリカでは統計資料の整備に加えて、統計職員養成が緊急の課題とされている。そのようなアフリカ経済委員会（ECA）では、国際機関のデータを利用してStatus of Women in Africaを作成した。これは冊子体、CDROM及びウェブ上で利用可能である（http://www.uneca.org/eca_resources/status_of_african_women/default.htm）。西アジア経済社会委員会（ESCWA）はArab Women Statistical Database（United Nations, 1995）より一九六〇年代以降の女性に関する統計データを提供した。最新のデータはウェブ上で得ることができる（<http://www.escwa.org/bgs/index.htm>）。

国連以外の組織では、世界銀行がGenderstats（<http://devdata.worldbank.org/genderstats/>）を作成しており、インターネットでアクセスできる。各国統計と国連統計及び世界銀行が行った調査に基づき国別、地域別で各分野のデータを提供している。個別の国とその国が所属する地域全体、及び中下層階級の指標を比較できる点が興味深い。（たかはし りえ／アジア経済研究所図書館）